

つどい まなび つながる

「市民センターを拠点とした地域づくりについて」 中間報告（案）

令和8年3月

幸松地区地域づくり推進協議会

agenda

1 委員名簿	3
2 協議経過	4
3 協議内容	7
4 取り組みの方向性	11
5 実施体制	12
6 目指すべき市民センターの姿	14
7 今後のステップ	16
8 KPI	19
9 まとめ	20

1 委員名簿

委員 13名 敬称略

会長・副会長

会長 鈴木 敏仁 (自治会代表)

副会長 菱沼 和保 (自治会代表)

委 員

白石	栄二	(自治会代表)
市川	大倫	(自治会代表)
三浦	力	(学校代表)
鈴木	淳子	(公募)
田中	聖嗣	(公募)
根岸	ミサ子	(公募)

高崎	光英	(自治会代表)
瀬高	武夫	(学校代表)
早川	純	(公募)
浅野	純子	(公募)
土橋	洋子	(公募)

2 協議経過

令和7年8月5日（火） 第1回協議会 出席委員数11人

- ・委員委嘱
- ・諮詢「市民センターを拠点とした地域づくりについて」
- ・報告事項
 - （1）春日部市地域づくり推進協議会条例の概要についてほか
- ・協議事項
 - （1）今後のスケジュール及び会議の進め方（案）について
 - （2）市民センターを拠点とした地域づくりに関して必要な意見交換

令和7年10月31日（金） 第2回協議会 出席委員数10人

・報告事項

（1）令和7年度 幸松市民センターで実施予定の地区センター事業
について

・協議事項

（1）市民センターを拠点とした地域づくりについて～幸松地区の
活性化に向けた取り組みについて（意見交換及び意見集約）～

令和8年1月28日（水） 第3回協議会 出席委員数〇〇人

・報告事項

（1）令和7年度 幸松市民センター実施の地区センター事業について

・協議事項

（1）市民センターを拠点とした地域づくりについて中間報告（案）
の検討

令和8年3月〇〇日（〇） 第4回協議会

・報告事項

（1） 質問「市民センターを拠点とした地域づくりについて」に対する中間報告

3 協議内容

幸松地区地域づくり推進協議会では、「市民センターを拠点とした地域づくりについて」の諮問を受けて、幸松地区における現状の課題と解決に向けた方向性について協議を行った。

第1回協議会（令和7年8月5日開催）

初めての会議であるため、主に今後の会議の進め方や、地域づくりを進めるうえでの現状や課題について、委員同士の共有を図った。そのうえで、次回会議の資料のための意見提出を持ち帰りの課題とした。

（1）今後のスケジュール及び会議の進め方について

⇒年度4回以内の開催、年度最後の開催で中間報告を行う等を決定

（2）市民センターを拠点とした地域づくりについてに関する必要な意見交換

⇒市民センターの機能についての意見交換（主な意見）

・市民センターの一室を勉強部屋として開放してはどうか。

（子どもの居場所づくり機能）

・市民センターに来れば、「～ができる」と認識してもらうことが利用者の增加につながる。（同上）

・避難所として、「避難してきた市民へどのように対処するか」を重点的に取り組んでもらいたい。（防災・防犯の拠点機能）

（3）その他

⇒令和6年度、前身の幸松市民センター地域づくり推進会議において挙げられた「地域づくりを進めるうえでの課題」に対し、その解決に向けた方向性や取り組みについての意見提出を持ち帰りの課題とする。

第2回協議会（令和7年10月31日開催）

前回会議での持ち帰り課題に対する意見をとりまとめた資料をもとに、幸松地区の活性化に向けた取り組みについて意見交換と意見集約を行った。

（1）市民センターを拠点とした地域づくりについて～幸松地区の活性化に向けた取り組みについて（意見交換及び意見集約）～

課題（1）情報発信発信が足りない

【協議会としての方向性】

紙媒体とSNSの双方での情報発信を進めていく方向で検討する。

課題（2）旧住民と新住民の融合が図られていない

課題（3）地域コミュニティが希薄である

【協議会としての方向性】

既存の事業を見直し、コミュニティの融合が促進される参加型の事業へ転換する方向で検討する。

課題（4）防災・防犯への取り組みについて 【協議会としての方向性】

「防災のつどい」の内容を、避難所の開設・運営訓練などの主体的に考える参加型にする。併せて、防災コーナーの設置、防災士の活用等も検討していく。

課題（5）高齢単身世帯への対応について 【協議会としての方向性】

「外に出て交流してもらう」を目的とした事業を検討する。

（2）市民センターのさらなる活用について 【協議会としての方向性】

各委員の意見はどれも素晴らしいものだが、時間や予算等に限りがあるため、それらを勘案したうえで、市民センターとしての方向性を検討していく。

4 取り組みの方向性

前述の【協議会としての方向性】を「幸松市民センターを拠点とした地域づくり」の“5本柱”とする。

- 1 情報発信の強化 ⇄ 紙+電子の“両輪”
- 2 旧住民・新住民の融合=コミュニティの再構築 ⇄ 参加型・交流型事業への転換
- 3 防災・防犯拠点としての機能強化 ⇄ 自ら考え、行動する参加型訓練の強化
- 4 高齢単身世帯への支援 ⇄ 外出と交流を促す仕掛け
- 5 市民センターのさらなる活用
⇨ 子ども・中高生・憩い・学びの場づくりなどなど無限の可能性

5 実施体制

地域づくりのキーワードは、“住民参加”

地域住民が主役となり、“5本柱”をアクティブに推進していくため

幸松地区地域づくりパートナー制度

(仮称) こうまつメイト

の創設を提案

幸松地区地域づくりパートナー制度（仮称）こうまつメイトとは…（概要）

対象 幸松地区の一員であることに誇りを持ち、

地域を盛り上げたい情熱がある人・団体

役割 ①市民センターとともに情報発信

②市民センターとともに“5本柱”的事業を企画・運営・参加

報酬 なし

任期 なし

この制度の活用により、地域住民（（仮称）こうまつメイト）と市民センターのシナジー効果（相乗効果）を最大限に発揮した地域づくりを推進！！

6 目指すべき市民センターの姿

(仮称) こうまつメイトと市民センターが一体となって、**“5本柱”**事業に取り組むことで

幸松市民センターにつどい

幸松市民センターでまなび

幸松市民センターでつながる

「つどい まなび つながる」

幸松市民センターは、地域のハブ（中心、結節点）としての役割を
担い、地域づくりの拠点に！！
そして、地域活性化・地域課題の解決にコミット！！

7 今後のステップ

令和7年度 ホップ

- ・協議会4回開催 諮問～中間報告

令和8年度 ステップ

- ・協議会4回開催予定（4月～令和9年3月）
- ・幸松地区地域づくりサポーター制度（仮称）こうまつメイト制度設計
⇒ リリース（6月～7月）
- ・（仮称）こうまつメイトとともに”5本柱”事業に着手
⇒ 具体的な事業に落としこみ、実現可能なものは下半期に事業化、
次年度事業の予算化（7月～）
- ・諮問に対する答申（令和9年3月）

令和9年度以降 ジャンプ

“5本柱”事業に本格的に着手

8 KPI

※具体的な項目・数値等は令和8年度に設定

(例)

(仮称) こうまつメイト会員数

(仮称) こうまつメイトへの情報発信数

(仮称) こうまつメイトと協働事業数

市民センター利用者数

9 まとめ

「幸松市民センターを拠点とした地域づくり」を推進するための“5本柱”

- 1 情報発信の強化
- 2 旧住民・新住民の融合＝コミュニティの再構築
- 3 防災・防犯拠点としての機能強化
- 4 高齢単身世帯への支援
- 5 市民センターのさらなる活用

「幸松市民センターを拠点とした地域づくり」
“5本柱”を推進するためのエンジン

幸松地区地域づくりパートナー制度
(仮称) こうまつメイトの創設

(仮称) こうまつメイト、幸松市民センター、当協議会の役割と位置づけ

主 体	役 割	位 置 づ け
(仮称) こうまつメイト	市民センターと“5本柱”事業を企画・運営、情報発信	地域づくりの主役
幸松市民センター	(仮称) こうまつメイトのサポート、情報提供 関係者・関係団体の結び付け	地域づくりの拠点 地域のハブ
地域づくり推進協議会	“5本柱”事業開催に向けた審査・助言・承認	地域づくりのアドバイザー